

都市再生整備計画 事後評価シート
山辺地区

平成27年3月

山形県山辺町

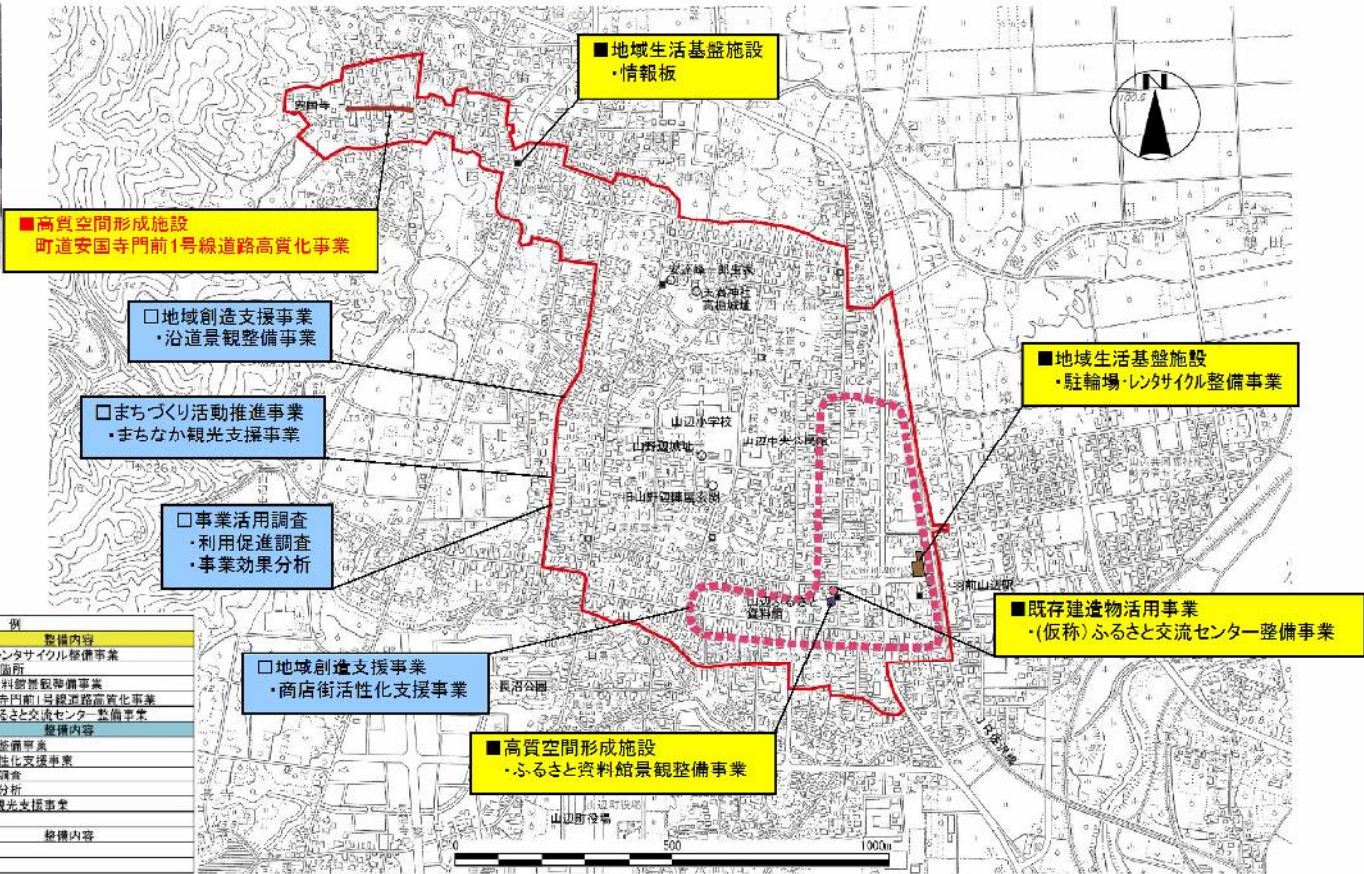
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山形県	市町村名	山辺町	地区名	山辺地区			面積	93ha				
交付期間	平成22～26年度	事後評価実施時期	平成26年度	交付対象事業費	230百万円	国費率	0.4						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
	基幹事業		自転車駐車場－駐輪場・レンタサイクル整備事業、情報板－情報サービス事業、緑化施設等－ふるさと資料館景観整備事業、既存建造物活用－交流施設整備事業(仮称)ふるさと交流センター										
	提案事業		沿道景観整備事業、商店街活性化支援事業、利用促進調査、事業効果分析、まちなか観光支援事業										
			事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
	当初計画から削除した事業		基幹事業		せせらぎ広場・お休み処整備、中央公民館環境整備		せせらぎ広場・お休み処：地権者との交渉が難航、中央公民館環境整備：整備対象予定地に他補助金により図書館を整備		影響なし				
			提案事業		通り名ネーミング、交流施設活動支援、駅バリアフリー社会実験		通り名ネーミング：事業主体となる住民団体の活動ができなくなった、交流施設活動支援：既存施設との連携による一体的な施設運営を予定した、駅バリアフリー：事業主体であるJRとの協議が難航		影響なし				
新たに追加した事業		基幹事業		町道安国寺門前1号線道路高質化事業		歴史ある寺の門前であり、周辺住民からの要望も多いため							
提案事業													
交付期間の変更		当初変更		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	指標1	ふるさと資料館・交流施設利用者数	人/年	3,756	H20	4,000	H26	6,780	○			あり	ふるさと資料館の景観整備と情報板設置、隣接する旧旅館を利用して整備した交流施設(ふるさと交流センター「あがっしやい」)のオープンにより、観光施設または町民の交流施設としての利用が増加した。また、本計画に基づく補助金を活用し、本施設を利用したイベント開催も利用者数の増に貢献した。さらに各種観光関連施策による観光客の増が、本施設の利用者増に間接的に寄与している。
												なし	
	指標2	仲町・本町通り空き店舗数	店	13	H19	10	H26	14	×			あり	商店街活性化支援事業による誘客イベント等を開催し、さらに商工サイドにおいて補助制度を総合的に行うことにした。しかし、入居者数が増えず、また個別に聞き取り調査を実施した結果、店舗兼住宅が多く所有者の理解が得られなかったことから達成できなかった。
指標3	イベント開催数	回/年	0	H20	2	H26	2	○	あり	山辺町地域づくり活動団体補助金を活用した住民主体のイベントを実施。さらに、ふるさと交流センター「あがっしやい」を利用しての地元高校生主体によるイベントを開催したことにより目標値を達成した。			
指標4									あり				
									なし				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み				
	その他の数値指標1												
その他の数値指標2													
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた								
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
住民参加プロセス				都市再生整備計画に記載し、実施できた									
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した									
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
持続的なまちづくり体制の構築		YOUBASE会と連携したまちづくりの検討		都市再生整備計画に記載し、実施できた						●			
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						今回の経験を活かして、イベント開催などを通じて、商店街、教育機関等多様な団体との協働によるまちづくりに取り組んでいく。			
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

様式2-2 地区の概要

山辺地区(山形県山辺町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値		目標値		評価値	
		値	年	値	年	値	年
大目標: 地域資源や都市ストックを活用した町民が誇りを持てる「まちの顔」としての再生。 目標1: 地域の誇りである歴史・文化の継承。 目標2: まちの交流や憩いの場としての商店街の再生。 目標3: コミュニティの交流活動、観光活動の活発化。	ふるさと資料館・交流施設利用者数	3,756	H20	4,000	H26	6,780	H26
	仲町・本町通り空き店舗数	13	H19	10	H26	14	H26
	イベント開催数	0	H20	2	H26	2	H26



凡 例	凡 例	整備内容
■ 基幹事業	■ 駐輪場・レンタサイクル整備事業	情報板(4箇所)
■ 地域生活基盤施設	● ふるさと資料館景観整備事業	ふるさと資料館景観整備事業
■ 高質空間形成施設	■ 町道安国寺門前1号線道路高質化事業	町道安国寺門前1号線道路高質化事業
■ 既存建物活用事業	■ (仮称)ふるさと交流センター整備事業	(仮称)ふるさと交流センター整備事業
□ 提案事業	□ 沿道景観整備事業	沿道景観整備事業
□ 地域創造支援事業	□ 商店街活性化支援事業	商店街活性化支援事業
□ 事業活用調査	□ 利用促進調査	利用促進調査
□ 事業活用調査	□ 事業効果分析	事業効果分析
□ まちづくり活動推進事業	□ まちなか観光支援事業	まちなか観光支援事業
○ 関連事業		整備内容

まちの課題の変化 旧旅館を活用した交流施設「あがらっしゃい」のオープンなどにより本町の歴史・文化の再確認の機会を増やし、活性化に寄与している。その他の歴史・文化資源の適正な保全・活用による継承が必要であるとともに、商店街の活性化・魅力向上、住民・事業者のまちづくりへの参加促進が必要である。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む) 重要な歴史・文化資源を長く継承するためにも、適正に保全するとともにまちづくりにも活用しまちの魅力としていく。
空き店舗対策など各商店の商業機能を向上させるとともに、歴史・文化資源の活用などによる中心商店街を含む地区全体の魅力を向上させる。
まちづくりの主役である住民・事業者が、まちづくりに積極的に参加できるような環境を整備する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	広場整備－せせらぎ広場整備事業	5	駅前広場整備	0	事業削除	地権者との交渉が難航し、事業進捗が見込めなため削除。	影響なし	-	-
地域生活基盤施設	自転車駐車場－駐輪場・レンタサイクル整備事業	40	駐輪場300台整備	41	駐輪場200台整備	駐輪台数拡充による駐輪場の増設が必要となり、既存敷地では狭く、隣接する土地を取得し整備する必要があるため、用地交渉による期間延長と整備費の増による変更。	影響なし	●	
地域生活基盤施設	広場整備－お休み処整備事業	10	駅前広場整備(休憩所整備)	0	事業削除	当初計画作成時は理解はあったものの、将来的な利活用について所有者との交渉が難航し事業進捗が見込めなため削除。	影響なし	-	-
地域生活基盤施設	情報板－情報サービス事業	20	情報板設置	3	情報板設置	関係課との調整により、情報板設置数を見直したため事業費を減とし、期間を変更。	影響なし	●	
高質空間形成施設	緑化施設等－ふるさと資料館景観整備事業	5		5		既存建造物活用事業と一体的に整備する事により事業費及び事業期間を変更。	ふるさと資料館・交流施設利用者数に関係するが、整備内容に変更はないため影響なし	●	
高質空間形成施設	緑化施設等－中央公民館環境整備事業	30		0	事業削除	整備予定地へ他補助金による図書館整備を行うこととなったため削除。	影響なし	-	-
高質空間形成施設	町道安国寺門前1号線道路高質化事業	-	なし	38	L=150m	歴史ある寺の門前であり、周辺住民からも景観に配慮した道路高質化に対する要望が多いため追加。	影響なし	●	
高次都市施設									
既存建造物活用事業	既存建造物活用－交流施設整備事業(仮称)ふるさと交流センター	60	500㎡	122	580㎡	用地補償費の精査による事業費の増と、既存建造物の移転改修に伴い一部増設することとなったため、事業費を変更。	ふるさと資料館・交流施設利用者数に関係するが、整備内容に変更はないため影響なし	●	
都市再生交通拠点整備事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度			基準年度		目標年度					あり	なし		
指標1	人/年	1年間(4月～翌3月)のふるさと資料館利用者数(チケット販売数による)と交流施設「あがらっしい」利用者数(常駐職員によるカウント)の平均値			3,756	H20	4,000	H26	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 ●	6,780	事後評価 ○				
指標2	店	現地調査により10月現在の空き店舗数を把握			13	H19	10	H26	モニタリング			モニタリング				●
									事後評価	確定 ●	14	事後評価 ×				
指標3	回/年	1年間(1月～12月)における地元商店街・住民主導によるイベント開催の当日現地確認			0	H20	2	H26	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 ●	2	事後評価 ○				
指標4									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定 ●		事後評価				

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	「ふるさと資料館景観整備事業」や既存建造物活用事業で整備したふるさと交流センター「あがらっしい」のオープンにより利用者が増加した。	
指標2	商工サイドにおいて補助制度を、包括的かつ一元的に行うこととなったが、個別に聞き取り調査を実施した結果、店舗兼住宅が多く所有者の理解が得られなかったことから達成できなかった。	
指標3	本計画に基づき設置した「山辺町地域づくり活動団体補助金」を活用したイベント開催と、交流施設を利用したイベント開催により目標を達成した。	左記にカウントしたもの以外にも、様々な主体による様々なイベントが開催されるようになっている。
指標4		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度					
その他の 数値指標1			-	-	-	-	モニタリング	-	-		
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2			-	-	-	-	モニタリング	-	-		
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
【当初計画】それぞれの事業を円滑に進め、目標の達成に向かって確実な効果をあげるため、中間(平成24年度)と最終の2回事業効果分析を行う。	予定どおり実施した ----- 予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 前年度までの事業実績などから、費用をかけずに(外部委託せず直営で)行うことが必要となり、国の様式によらず、本計画の変更の際に必要となる事項の把握に努めたため。)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した ----- 予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した ----- 予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
YOUBASE会と連携したまちづくりの検討	予定どおり実施した ----- 予定はなかったが実施した	● 住民との協働によるまちづくりの第一歩として、通り名ネーミング事業に取り組んだ。(案策定から後の作業が進まなかったため、実際のネーミングには至らず)	YOUBASE会	今回の経験を活かして、イベント開催などを通じて、商店街、教育機関等多様な団体との協働によるまちづくりに取り組んでいく。
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	関係課(建設課、政策推進課、産業課、教育課)職員(課長・係長)	平成27年1月20日	建設課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標3							
指標名		ふるさと資料館・交流施設利用者数		イベント開催数							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見		
基幹事業	自転車駐車場-駐輪場・レンタサイクル整備事業	△	ふるさと資料館の景観整備と情報板設置、隣接する旧旅籠を利用して整備した交流施設(ふるさと交流センター「あがらっしやい」)のオープンにより観光施設または町民の交流施設などとしての利用が増加した。また、本計画に基づく補助金を活用し、本施設を利用したイベント開催も利用者数の増に貢献した。さらに各種観光関連施策による観光客の増が、本施設の利用者増に間接的に寄与している。	-	山辺町地域づくり活動団体補助金を活用した住民主体のイベントを実施。さらに、ふるさと交流センター「あがらっしやい」を利用しての地元高校生主体によるイベントを開催したことにより目標値を達成した。						
	情報板-情報サービス事業	◎		-							
	緑化施設等-ふるさと資料館景観整備事業	◎		○							
	町道安国寺門前1号線道路高質化事業	○		-							
	既存建造物活用-交流施設整備事業	◎		◎							
提案事業	沿道景観整備事業	○				○					
	商店街活性化支援事業	◎				◎					
	まちなか観光支援事業	◎				○					
	利用促進調査	○				-					
	事業効果分析	-				-					
関連事業											

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	地域住民や地元高校生等にもっと施設を利用してもらい、あらゆる行事の場として施設の活用の幅を広げてもらう。	個人・団体を問わず様々な活動とイベントに取り組んでもらい、誘客を図る。		
-------	--	-------------------------------------	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標2											
指標名		仲町・本町通り空き店舗数											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	自転車駐車場－駐輪場・レンタサイクル整備事業	-	商店街活性化支援事業による誘客イベント等を開催し、さらに商工サイドにおいて補助制度を総合的に行うことにした。しかし、入居者数が増えず、また個別に聞き取り調査を実施した結果、店舗兼住宅が多く所有者の理解が得られなかったことから達成できなかった。	I									
	情報板－情報サービス事業	-											
	緑化施設等－ふるさと資料館景観整備事業	△											
	町道安国寺門前1号線道路高質化事業	-											
	既存建造物活用－交流施設整備事業	△											
提案事業	沿道景観整備事業	-											
	商店街活性化支援事業	△											
	まちなか観光支援事業	△											
	利用促進調査	-											
	事業効果分析	-											
関連事業													

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	空き店舗利用者に対する直接的な支援を継続するとともに、所有者への制度の理解と周知を行い、SNS・ロコミ等による事業主募集の拡大とバックアップ体制の確立を図る。さらに本地区全体の観光客等来街者の増加を図り、中心市街地の活性化を図る。また、より正確な実態を把握するため、指標とする空き店舗の定義を明確にする。		
------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	関係課(建設課、政策推進課、産業課、教育課)職員(課長・係長・担当者)	平成27年1月20日	建設課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載した まちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
<input type="checkbox"/> 「まちの顔」再生の重要な資源である歴史・文化の継承が重要である。	重要な歴史資源であった旧旅籠を長く継承していくため、交流施設としてふるさと交流センター「あがらっしやい」として整備した。隣接するふるさと資料館とともに利用者が増加しており、本町の歴史・文化の再確認の機会を増やしている。	・その他の歴史・文化資源の適正な保全・活用による継承	
<input type="checkbox"/> 街の中心である商店街の魅力向上が必要である。	交流施設(ふるさと交流センター「あがらっしやい」)をオープンするなど事業前と比較して魅力は向上された。しかし、空き店舗数は増加しており目標達成には至っていないことから、さらなる商店街の魅力向上が必要である。	・各商店主の意欲の向上 ・商店街周辺にある歴史・文化資源などを活用したさらなる魅力の向上	
<input type="checkbox"/> 交流活動等を促すための基礎的な条件確保が必要である。	運営内部、運営と参加者、参加者同士の交流の場となる住民主体のイベントを開催することができた。	・住民・事業者のまちづくりへの参加促進	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	歴史・文化の継承とそれらを活用したまちづくりの促進	重要な歴史・文化資源を長く継承するためにも、適正に保全するとともにまちづくりにも活用し、まちの魅力としていく。	・歴史的町並みを活かした景観形成 ・歴史・文化資源をめぐるマップ作成

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	中心商店街のさらなる魅力向上	誰をターゲットにしていくのかを明確にし、その意向などを踏まえながら、空き店舗対策など各商店の商業機能を向上させるとともに、歴史・文化資源の活用などによる中心商店街を含む地区全体の魅力を向上させる。	・空き店舗対策 ・歴史・文化資源をめぐるマップ作成 ・アクセス環境の向上
	住民・事業者のまちづくりへの参加促進	まちづくりの主役である住民・事業者が、まちづくりに積極的に参加できるような環境を整備する。	・住民主体のまちづくり活動への支援 ・魅力向上による自らのまちの再確認・まちづくりに対する参加意欲の向上

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
				年度		年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	ふるさと資料館・交流施設利用者数	人/年	3,756	H20	4,000	H26	確定	6,780	○	あり	平成27年4月	チケット販売数から把握したふるさと資料館利用者数と、常駐職員のカウントによる交流施設「あがらっしやい」の利用者数から、平成26年度(平成26年4月～平成27年3月)の利用者数を把握	
							見込み ●			なし			
指標2	仲町・本町通り空き店舗数	店	13	H19	10	H26	確定 ●	14	△	あり			
							見込み			なし ●			
指標3	イベント開催数	回/年	0	H20	2	H26	確定 ●	2	○	あり			
							見込み			なし			
指標4							確定			あり			
							見込み			なし			
その他の数値指標1							確定			あり			
							見込み			なし			
その他の数値指標2							確定			あり			
							見込み			なし			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・ふるさと資料館・交流施設利用者数は、ふるさと資料館の隣に交流施設「あがらっしやい」を町民に親しまれる施設として整備したことで、相乗効果で増加した。 ・イベント開催数は、カウント対象となるイベント以外にも、様々な主体による様々なイベントが開催されるようになった。	目標達成のための対応を図ることも可能となるため、数値目標は毎年データが算出できる指標とする、あるいはモニタリングを実施することが有効である。
	うまくいかなかった点	・唯一目標を達成できなかった空き店舗数は、本計画の変更時にもその時点での実績値を把握していなかったため、減少に直接寄与するような事業の追加・変更ができなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・本計画に基づき整備した交流施設「あがらっしやい」が、ふるさと資料館・交流施設の利用者数の増はもちろん、イベント開催数の増にも大きく寄与した。	設定する数値目標は、複数の事業が貢献できるものとし、1つの事業の成否で達成できなくなるような目標としないことが望ましい。
	うまくいかなかった点	・唯一目標を達成できなかった「空き店舗数の減少」は、ほとんど商店街活性化事業の貢献度に左右されるものであった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・イベント開催などにおいて商店、地区住民の自主的参加を得ることができた。	イベント開催に際しては、周辺住民への周知等、十分な準備・配慮が必要である。
	うまくいかなかった点	・イベント開催において、イベント自体は問題なく開催することができたが、後日、撤収に関するクレームが1件あった(但し、事実確認は出来なかった)。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

<p>・今後の交付金の活用予定 本計画により一定の効果を上げることができたが、さらなる中心市街地としての再生が必要なため、当地区の次期(第2期)計画を作成し、交付金の活用を図る。</p> <p>・今後、事業評価を予定する地区 平成28年度に緑ヶ丘地区の事後評価を予定。当地区の事後評価の経緯を踏まえて、円滑な評価実施を図る。</p>
--

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	平成27年2月5日～3月9日	平成27年2月5日～3月9日	担当課への郵送、 FAX、メール	建設課
広報掲載・回覧	広報に原案の概要を掲載	広報平成27年2月15日号(平成27年2月13日配布)	平成27年2月16日～3月9日		
説明会・ワークショップ					
その他	町のホームページ掲載に併せて各支所・公民館に原案を配置	平成27年2月5日～3月9日	平成27年2月5日～3月9日		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	委員長:青木 俊明(東北大学大学院 国際文化研究科准教授)	平成27年3月19日	建設課	山辺町都市再生整備計画評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	齋藤邦彦(山辺町議会厚生産業常任委員会委員長) 本田四志子(山辺町都市計画審議会会長) 渡辺清志(本町商店振興会代表) 峯田季志(山辺町商工会会長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・評価結果については了承された。 ・ただし、イベント開催数については、実情を明らかにするためカウント対象ではないイベントについても表記すべきという意見を得た。
	実施過程の評価	・実施過程については、適正であると確認された。 ・ただし、体制構築に向けた取組内容は、より実情に合わせた表現にすべきとの意見を得た。
	効果発現要因の整理	・効果発現要因については、了承された。 ・ただし、今後のため空き店舗数の改善方針に、指標の設定の仕方について追記すべきという意見を得た。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案が、町民に対して適正に公表されたことが確認された。
	その他	・今後も空き店舗数を指標とする場合は、その定義を明確にすることでより実態に即した指標になるという意見を得た。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・今後、ターゲットを明確にしていくとよいという意見を得た。 ・うまくいかなかった点は、全体としてみて反省すべき点などを記述すべきという意見を得た。
	フォローアップ	・フォローアップは適正と認められた。
	その他	・うまくいった点の記述を充実させるよう意見を得た。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当と認められた。
その他	・当初計画で上げた事業を変更時に安易に外すというのは考えられないため、今後は計画策定の段階で精査してこのようなことがないようにしてほしいという意見を得た。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。